

報告書番号:R10-084  
試験番号:T1008V070  
受付日:平成 22 年 7 月 7 日

# 試験報告書

— 株式会社 カナイ 様 —

発行日 平成 22 年 8 月 17 日



## 1. 試験概要

試験名称	木造建築用接合金物のせん断試験（仮設用根太受け金物）
依頼者	会社名：株式会社力ナイ 所在地：埼玉県八潮市西袋717-1
試験内容	[仕様] 根太 : S-P-F ; 38×89×910mm 梁 : S-P-F ; 38×235×910mm 2丁合せ
	[接合金物] 商品名 : 仮設用根太受け金物（×2）
	[接合具] 接合具 : 木ねじ ; YS-N45（φ=6.0×45）4本（×2） 枠組材取付用 : 太め鉄丸くぎCN75 ; 28本（×2）
	[試験体数] : 7体
試験方法	「2007年枠組壁工法建築物構造計算指針」（編集／枠組壁工法建築物 設計の手引・構造計算指針編集委員会、発行／社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第Ⅴ編「材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の第2章「材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法の解説」に準じて行った。
試験結果	基準許容応力：3.6kN 基準終局耐力：8.2kN 基準剛性：16.7kN/cm
試験期間	平成22年7月28日～8月12日
担当者	試験担当者 株式会社住宅構造研究所 原 無門
試験場所	株式会社住宅構造研究所 東京都足立区東保木間1-4-2

## 5. 算定結果

### 5.1 包絡線の作成

- ① 仕口や継手を2個1組で試験を行った場合は、仕口や継手1個の荷重は、試験荷重×0.5と扱う。
- ② 材芯での変位を測定するために、1個の仕口や継手で2以上の変位を測定した場合、その平均値を変位とする。
- ③ 包絡線は、測定した荷重－変位曲線の終局加力を行った側の最初の荷重－変位曲線より作成する。

### 5.2 基準許容応力、基準終局耐力及び基準剛性の算定

基準許容応力は、試験許容応力の統計量から得られる信頼水準75%の95%下側許容限界（以下5%下限値という）に2/3を乗じた値とし、基準終局耐力は試験終局耐力5%下限値とした。また基準剛性は試験剛性の平均値とした。なお、5%下限値は次式より求めた。

$$5\% \text{下限値} TL = x - k \cdot s$$

ここで、 $x$ ：試験耐力の平均値、 $s$ ：標準偏差、 $k$ ：定数 2.336

表 1 基準許容応力・基準終局耐力・基準剛性

試験体記号	加力方法	降伏耐力	降伏変位	終局耐力	終局変位	試験剛性
		UNIT : kN	UNIT : mm	UNIT : kN	UNIT : mm	UNIT : kN/cm
仮設用根太受け金物-0	単調加力	7.0	5.4	12.4	30.0	13.0
仮設用根太受け金物-1	繰返加力	6.4	3.3	10.5	26.2	19.6
仮設用根太受け金物-2		9.1	5.0	15.2	30.0	18.3
仮設用根太受け金物-3		7.6	5.2	11.2	28.9	14.6
仮設用根太受け金物-4		6.7	5.4	11.0	26.2	12.3
仮設用根太受け金物-5		7.8	4.0	12.7	30.0	19.5
仮設用根太受け金物-6		8.0	4.9	12.8	30.0	16.4
平均		7.6	4.6	12.2	28.5	16.7
標準偏差	0.97	0.83	1.75	1.89	2.91	
変動係数	0.128		0.143			
ばらつき係数	0.701		0.666			
5%下限値	5.3		8.2			
基準値	基準許容応力			基準終局耐力		基準剛性
	3.6			8.2		16.7